

M20230430_03_GVR

極微針薬剤デリバリ市場、2030年に94億6000万ドル

Grand View Research のレポートによると、世界の極微針薬剤デリバリシステム市場規模は、2023 - 2030年にCAGR 7.4%成長で、2030年に94億6000万ドルに達する見込である。

従来の皮下注射の安全な代替に対する需要増、侵襲性の少ない無痛投薬についての認識向上が、極微針薬剤デリバリシステム市場の成長を後押しすると予想されている。さらに、糖尿病症例の増加が、その市場の成長の原動力になると見られている。例えば、2021年、World Health Organization (WHO)の推定では、世界中で約4億6300万の成人が糖尿病で生活しており、これは世界人口の9.3%になる。

極微針は、従来の薬剤デリバリ法、経口あるいは皮下ルートなどに対して複数の利点がある。研究によると、極微針による薬剤デリバリは、薬剤の吸収、生体利用効率と有効性、特に難水溶性あるいは低浸透性の薬剤の場合である。例えば、“Journal of Controlled Release”に発表された研究は、極微針を使う経皮インスリンデリバリは、皮下注射よりも効果が高いことを示している。

COVID-19 パンデミックは、極微針による薬剤デリバリに大きな影響を及ぼした。市場でのパンデミックの主要な影響は、ワクチンデリバリ要求の増加だった。極微針は、COVID-19 ワクチンの潜在的なデリバリ法として研究されている。使いやすさ、低コスト、強力な免疫反応を誘発する可能性のためである。パンデミックは、極微針ベースワクチンデリバリシステムの開発を加速した。複数の企業や学術機関が COVID-19 ワクチンパッチに取り組んでいる。

極微針薬剤デリバリシステム市場レポートのハイライト

・2022年、中空極微針セグメントが最大収益シェアだった。ワクチンやホルモン療法患者への利用が適していると考えられているから

である。

- 溶ける極微針セグメントが、予測期間に最速成長と予想されている。ワンステップを必要とするだけで、極微針は、挿入後に取り去る必要がないからである。
- 金属材料セグメントが、2022年に最高収益シェアだった。ステンレススチールやチタンが、最も頻繁に利用される金属である。
- アプリケーションでは、薬剤デリバリセグメントが、2022年に市場で優勢だった。
- ワクチンセグメントは、予測期間に最速成長率が見込まれている。人々の間でワクチンに対する認識が向上していることが原因である。
- APAC が、予測期間に最速 CAGR 成長が見込まれている。中国やインドに未開発の機会が存在することが原因。